

時櫻田門選出の中央委員竹條田八十八君(共產派)は他の中央委員の発言中突如として上衣を脱し赤坂支部選出中央委員宮井昌士君上怒馬を浴せり、呉外行を加へたるが爲め他の中央委員傍聴者等其之れを阻止せんとして議場は大混亂に陥り宮井君の出勤よりして鎮靜上帰するが如き醜態を演ずるに至つた。此の事件は竹條田君の汚罪による無事な演説に演説者の前段として街頭に於て中央委員傍聴者等の間に争鬪が演ぜられ、新宿支部理事たる石川勇次郎君は頭部に裂傷を負せざるに到つた。もとより石川君は當日中央委員として中央委員會に出席してゐるが、何者街頭に出る必要はなかつた。而かも本部會中中央委員會の議場より退出することゝ極力制止したる拘り、石川君は重大なる結果を生せしめたる當面の責任者たる自動部代表委員はその根本たる會費不納問題に就ては此の如き反省の色亦く、又將來に向つては會費を納入すべき何者之言明をせざるに決つたのである。

かくの如き行ふ勃を敢てすること日明から當日の中央委員會を紛亂せしめ、それによつて委員會の解散、以て會費不納問題の有耶無耶の中に葬り去ることする彼等一

派の陰謀だつたのである、何故に彼等が會費不納の途に出でかといふに、彼等が『政系乱』を高唱し一般會員に対し會計に就て疑問を起し、之に乗じて右翼幹部不信任を表明し、以て自治會の統制力を自派の掌中に收めんとする魂胆たるや明かである。もし會計に不審の點があるならば何故に彼等は從來の中央委員會に於てその事を質問せざるや。而して他の支部よりは會計委員が毎月末つて會計を審査しその間遠くふる事を證明せるに對し、自動部支部の如きは會計委員を派遣し、いはいが、彼等一派が幹部を中傷するがため、勝手に會費不納を企てるが如きは、實に許すべからざる組合的犯罪であつて、之を黙過することは實に自治會全體の統制上一大危機である。

### 彼等は共產黨の手先である

自治會の一角に存在して總へて空想的な理論を振り廻して、右翼幹部を攻撃し、かつ、彼等共產黨派が常日日本共產黨の諸君と往來し、その指揮を受けつて、あるは、敵を、かき、一軍、突、て、彼等の言論は自治會外部の共產系諸団体と同一致道を進みつて、あるが故に、自治會の独自の立場に立つて、その牽連を認ることなく、寧ろ共產黨の手先と云つて自治會を共產黨の支配下に置かんとするのである。